

しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことがありません。

わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。

高松泉キリスト教会 ニュースレター

第 172 号 (2024 年 6 月号)

い ズ ミ

香川県高松市伏石町 2018-5
Tel & Fax 087-867-2302
<http://izumichurch.holy.jp/>
発行人 宮地 宏一



先月は寒暖の差が激しかったですね。前日と比べ 10°C近く違った日もありました。私は寒がりで暑がりなので、一日のうちで半袖から長袖、長袖から半袖へなんて日もあったのです。

先日、大学時代の友人たちと「今、自分たちは 40 代にふさわしい格好をしているか」ということで盛り上がりました。私は 10 代後半から変わらず、チェックのシャツにジーンズという格好です。少しおしゃれをしようと思ったこともましたが、勇気が出なくて現状維持。変化を好まないのは、私の人生とよく似ています笑



今月も皆様とご家庭の上に、神さまからの恵みが豊かに注がれますように。

(2024. 06. 01)



比べても…

二歳の次女は時々、お兄ちゃんたちの部屋に忍び込み、彼らのお菓子を密かに食べています。私の部屋にあるガムが入ったボトルからガムを取り出し、食べていることもあるのです。とにかく何をしてかすか分からぬので、目が離せません。そんな彼女の行動を見ながらつい「ダメよ。ダメダメ」と言ってしまう私。でも全く彼女には響かず、いたずらを繰り返しています。上の 4 人が 2 歳の時はどうだったかと振り返ってみると、彼女ほどではなかったような気がするのです。ここまで自由奔放なのは末っ子ゆえでしょうか。。。。

そんな次女を見ていて、時々羨ましくなるのです。自分のやりたいようにやり、思い通りにならないと泣きわめく。彼女のように自分の感情のおもむくまま、人の顔色をほとんど気にすることなく生きられたら、どんなに楽だろうかと。年を重ねれば重ねるほど、期待値が上がり、ある一定の枠にはめられます。その枠からはみ出してしまって“問題あり”というレッテルを張られ、どんどん生きづらくなるのです。そうならないために、私たちは自分の感情を押し殺して、周りに合わせようとします。



私自身、出来た人間ではないので、一定の枠からはみ出しそうになるときがあります。家族や周りの人の期待に応えられない自分にガッカリするのです。また周りの人と比べ、「オレなんか」と卑屈になることもあります。このように人と比べることは、私たちにとって大きなストレス。それでも私たちは人と比較してしまうのです。

新約聖書には、イエス様が群衆たちに話されたたとえ話がいくつも記録されています。その中に、一般的に「放蕩息子のたとえ」という話があるのです。物語は二人兄弟の弟の方が生前分与を父に求めるところから始まります。弟は父から相続分を譲り受けると、すぐに全財産を持って遠い国に旅立つのです。そこで彼は財産を使い果たしてしまいます。そのため彼は食べるものにも困ります。

そのとき彼は我に返り、父のところに帰ろうと決意します。そして彼が父のもとに向かう途中、まだ家までは遠かったのに、父が彼を見つけて、彼をかわいそうに思って駆け寄るのです。さらに父は彼に服・指輪・靴を与え、彼のためにパーティを開きました。





この最中に、兄が畠から帰って来ます。彼は召使いから「あなたの兄弟がお帰りになりました。お父様が大変喜ばれて、パーティをしているのです」と聞くと、怒って、家に入ろうとしません。そんな彼をなだめるために父が出てきますが、兄は「長年お父さんに忠実に仕えてきた私に子やぎ一頭与えてくれなかったのに、財産を食いつぶした弟のために子牛でパーティをするなんて、不公平だ」と不平不満をぶつけるのです。

少し前に話題になった「八色ヨハネ先生」という小説に次のような一節がありました。

…このお兄さんは恐らくこれまで父親に対して不平不満を言ったことなどなかったのでしょう。父親と仲良く暮らしていたのです。そこに弟が帰ってきました。お兄さんにとっては、自分の立派さ・素晴らしさを比べることができる相手が、比較対象が帰って来たのです。兄は直ちに自分の業績と弟のしでかしたことを見比べ、「自分は弟よりももっとよい目を見てもよいはずだ。自分の報酬・自分の取り分はもっとあるはずだ」と考えました。しかし、まさにそう考えたことにより、自分で自分を不平不満の塊にしてしまいました。自分で自分を不幸にしてしまったわけです。

…もし彼が、自分も父親から恵みを与えられている人間であり、父親と一緒にいるという幸せをよく弁えていたら、弟に対して腹を立てなかつたはずです。弟の帰宅と一緒に喜んだはずです。しかし、彼は自分の行いの善し悪しと弟の行いの善し悪しを比較し、自分で自分の優秀さを判断したために、父親との一体感をなくしてしまいました。

【三宅威仁著「八色ヨハネ先生」文芸社より】

私たちの人生も、真面目に、一生懸命やつたら、それにふさわしい報いがあるわけではありません。不真面目で、適当にやっている人、要領の良い人が徳をしているように見えることもあるのです。そんな彼らと自分を比較して、「何で私だけ。不公平だ」と思ってしまいます。でもこのようによく人と比較することが自分を「不平不満の塊」にし、不幸にしていると三宅氏は語るのです。人と比べても、何もよいものを生み出しません。

では、どうしたら人と比較することから、少しでも自由になれるのでしょうか。それは自分がどんな存在であるかを知ることではないかと思うのです。私たちは偶然、この世に生まれたわけではありません。聖書には、神さまが

私たち一人ひとりを愛をもって形造り、いのちを与えてくださったと書かれてあるのです。それだけでなく神さまが私たちの人生のすべてを支え、恵みを与え続けてくださると。

私たちは神さまの愛と恵みなくして生きられない者たちなのです。私たちの周りの人は、私たちのことを色々なことで評価するでしょう。レッテルを張られることがあるかもしれません。でも神さまはどんな私たちでも、たとえ何もできず、欠けだらけであったとしても、私たちをいつも喜び、愛してくださいます。この神さまと一緒に生きることが一番幸せだと気づくなら、私たちは人と比較することから自由になれるのではないでしょうか。

主（神さま）は、あなたがたに恵みを
与えようとして待ち、それゆえ、
あわれみを与えると立ち上がる。[聖書]



○ 礼 拝 毎週日曜日 10:30~12:00

○ イズミン・キッズ 每週日曜日 9:30~10:20

○ おやこ de えほん 毎週水曜日 10:30~12:00

○ Friendly English 毎週木曜日 9:30~11:50 (大人向け)



* どなたでも歓迎いたします！「Friendly English」以外は事前申込みなしで参加いただけます。

上記の他に様々な相談や聖書の学びをすることができます。お気軽にお問い合わせください。

